【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第２区分
【発行日】平成19年5月17日(2007.5.17)

【公開番号】特開2007-81402(P2007-81402A)
【公開日】平成19年3月29日(2007.3.29)
【年通号数】公開・登録公報2007-012
【出願番号】特願2006-245750(P2006-245750)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｌ　31/10　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｌ　31/10　　Ｇ

【手続補正書】
【提出日】平成19年2月14日(2007.2.14)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２６】
様々な実施形態では、フィードバックコントローラ５０４（図５Ａ）はさらに、切替え点６６０を格納するためのメモリ及び／又はデータ構造体を含む。装置５００（図５Ａ）は、切替え点６６０において、個々の曲線（「Ｍ１」）６８０及び（「Ｍ２」）６７０の使用を示す適切なパワーモニタを保証するために、範囲（「Ｒ１」）６１０及び（「Ｒ２」）６２０における入力光パワーレベル間を切り替える。再度図５Ａを参照すると、フィードバックコントローラ５０４は範囲６１０又は範囲６２０を選択するための範囲選択器５８０を含んでもよいことに留意されたい。範囲選択器５８０は、切替え点６６０を表すデータを切替え点データ（「Ｓ．Ｏ．Ｐ．」）５８１として格納するためのメモリを含む。本メモリはまた、第１のパワーモニタステージに関して、測定信号電圧と監視される入力光パワーレベルとの第１の関係を、図６における曲線（「Ｍ１」）６８０と等価であってもよい個々の曲線（「Ｃ１」）５８３として格納できる。これはまた、第１のパワーモニタステージに関して、第２の関係を（「Ｃ２」）５８４として格納できる。範囲選択器５８０は、装置５００の起動時及び／又はＡＰＤ５８１上への光ライトの照射（例えば、－４５ｄＢｍ以下の入力光パワー）に先行して、まず曲線（「Ｍ２」）６７０を用いて範囲６２０で始動することにより動作できる。次いで、範囲選択器５８０は、パワーモニタステージ５１４ａからの測定信号が切替え点６６０を通って移動するまで曲線６７０の使用を続ける。その後、範囲選択器はパワーモニタステージ５１４ｂを使用し、曲線（「Ｍ１」）６８０を用いてパワーを監視する。よって、範囲選択器５８０が既知の状態で（即ち、ＡＰＤに照射された既知レベルの光が存在している場合に所定のパワーモニタステージを用いて）始動すれば、これは、切替え点６６０を通るので正しく動作できる。効果的には、フィードバックコントローラ５０４及びそのメモリは、図６において「モニタ信号」として示されている入力光パワーレベルと測定信号５４０（図５Ａ）との非線形的な関係を格納できる。例えば、範囲６２０は、－４５から約－３２ｄＢｍまでの間の比較的非線形的な領域、及び－３２から切替え点６６０に一致する約－２２ｄＢｍまでの比較的線形的な領域を含むことを考慮されたい。この場合もやはり、範囲６２０は本質的に完全に線形である場合もあれば、本質的に完全に非線形である場合もあり、これらの組合せである場合もある。さらに、フィードバックコントローラ５０４は、ＡＰＤ及び／又はＡＰＤ供給者の各タイプについて、曲線（「Ｍ１」）６８０及び（「Ｍ２」）６７０として描かれている一意の関係性を格納できる。

【手続補正２】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【図１０】

